

# 草の芽句会たより

NO,93  
28,5,5

イーゼルの三々五々に風薫る  
遠くより太鼓の音や若葉風

文子

麦の秋照り映え眩し車窓かな  
そら豆の薄味旨し酒のあて

貞子

旅なれや輝やく朝日山新緑  
新緑の八十路の旅に氣を得たる

貞

三社祭法被女の艶やかに  
夏場所の郷土力士へ声かぎり

範子

母の忌にまばゆきばかりの麦畑  
街中を抜けて広がる城若葉

禮子

葉桜のさゆらぐ里や深呼吸  
雨近し風を誘う山帽子

純子

祭り終え幕外す人城薄暑  
道散華僧列が行く五月かな

節子

老鶯を聴く里山は雨もよい  
朴咲けり先生と眺めし日のごとく

剋子

投句者 大黒 川原 真鍋 吉崎 馬場

森 氏家 小山

風香る五月。新緑に包まれた城山は爽やかな風が吹き渡り  
生きとし生けるものの息吹を感じます。今月の例会は連休の  
只中、各々予定があり出席者が少なくなったため投句のみと  
なりました。その分楽しい旅の句や、生活に根ざした力強い  
句が出そろって充実した会報となっております。次回はまた  
揃って賑やかな句会となることを期待します。

